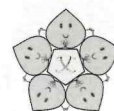




桃五だより



No.571

(1月号)

杉並区立桃井第五小学校

<http://www.suginami-school.ed.jp/momo5shou/>

2019. 1. 8

子供は、育てたようにしか育たない

校長 川田 忠

新年 明けましておめでとうございます。

平成最後の年が始まりました。今年は、亥年。猪突猛進という言葉に代表されるように、亥年は前へ前へと進む一年になるのでしょうか。子供たちの成長に応じて進む桃五小でありたいと思います。

12月のある日、桃五小の卒業生から電話がありました。校長としてこの学校に戻ってきたのを聞いて、すぐに電話したとのこと。もう25年も前の担任と児童との付き合いでしたが、懐かしさとうれしさが交錯する時間となりました。

15分間位の会話の中で、「先生のくしゃみが大きくて困った。男の子たちの何人も、担任と同じくしゃみをしていた」という話になりました。「えっ？」確かに、くしゃみが大きいのは自覚していましたが、それをクラスの男子児童が真似していたというのは気づきませんでした。

そんな若かりし頃の至らない担任の姿に『若い頃、もっとちゃんとやっておくんだっただ』という反省と共に恥ずかしさを覚えました。そして、卒業生との話から、教師の子供たちに与える影響の大きさを思いました。

教師になって、先輩から何度も聞いた話があります。それは、黒板の字を丁寧に書く担任のクラスでは、丁寧にノートをとる子供が育つ。言葉が美しい担任の下で、きちんとした言葉を使える子供が育つ。という話でした。「学ぶ」という言葉は、「真似る」を元に行っているわけで、子供たちにとってモデルとなり、真似するに値する良い姿をもつ教師であるようにと教わってきたのです。

学校における教師の姿勢としての話ではありますが、「子供を育てる」立場は教師だけではありません。それも、日本の国の話だけでもないようです。

アメリカインディアンの教え

批判ばかり受けて育った子は、非難ばかりします。
 敵意に満ちた中で育った子は、誰とでも戦います。
 ひやかしを受けて育った子は、はにかみ屋になります。
 ねたみを受けて育った子は、いつも悪いことをしているような気持ちになります。
 心が寛大な人の中で育った子は、我慢強くなります。
 励ましを受けて育った子は、自信をもちます。
 ほめられる中で育った子は、いつも感謝することを知ります。
 公明正大な中で育った子は、正義心をもちます。
 思いやりのある中で育った子は、信仰心をもちます。
 人に認められる中で育った子は、自分を大事にします。
 仲間の愛の中で育った子は、世界に愛をみつけます。

洋の東西を問わず、時代を越えて、子供を育てるには子供に直面する大人の有り様が大事なことを伝えていきます。大人一人一人が自らの育ってきた歴史を紐解いても、影響を受けてきた様々な先人たちが思い起こされるでしょう。

子供は、育てたようにしか育たない。と思います。だからこそ、これまでの育ちを元にして、ここからの子育てを、今日からの教育をどのように展開していくかについて、真剣に、本気になって、考え実践していかなければと考えます。そして、教師だけ、親だけでなく、多くの大人の力を合わせて子供を育てていく環境を実現していけたらと思います。

亥年には、勢いがあるといえます。桃五小を囲むたくさんの方の力を借りて、勢いのある教育を進めたい。本年も、どうぞよろしくお願いいたします。

1月の生活指導目標
あいさつや返事をはっきりしよう

- あいさつをきちんとしよう
- すずんでおはようのあいさつをしよう
- 呼ばれたら「はい」の返事ができるようにしよう

各クラスから桃五に増やしたいこととして出た意見を代表委員がまとめた桃五ファイブの中に「あいさつ」があります。桃五小にあいさつの声を増やしていこうと、代表委員とボランティアの子供たちは毎朝、元気なあいさつの声を響かせ、登校してくるお友達を迎えています。「元気なあいさつが返ってくるとうれしい。」と笑顔で活動しています。あいさつは心と心をつなぐもの。全員がすずんであいさつし、気持ちよく一日が始められるようにしましょう。ご家庭でもお声掛けをお願いいたします。